

新美南吉と詩

Nankichi × Step

南吉の詩は童話に勝るとも劣らず魅力的。地元を中心に活躍する現代の若手作家たちと詩をコラボレーションしていきます。



鶏はときたまひじょうに人間に似たしぐさをする。午前十時と午後三時頃首を傾げて日の高さを見る。仕事の捗らぬ職人のように。

鶏

自由と広さを味ってみるため力一ぱい羽ばたくのだ。たゞその途端一尺ばかりよろけていって尻もちをつくというだけのことさ

君だって大人のするだけのことはする開放されると自由と広さを味ってみるため力一ぱい羽ばたくのだ。たゞその途端一尺ばかりよろけていって尻もちをつくというだけのことさ

ひよこ

こたに千絵 イラストレーター

アナログの手法にこだわって、くすりと笑える作品を制作しています。http://chiek.iinaa.net/

絵について

こどもの失敗や大人の疲れを見守る優しくてかわいらしい詩だと思いました。作品ではひよこたちに元気に遊んでもらいました。一羽一羽なにをしているかご覧いただけたら嬉しいです。

新美南吉



にいみなんきち
(1913-1943)

大正2年7月30日、愛知県知多郡半田町(現・半田市)に生まれる。幼くして母を亡くし、養子に出されるなど寂しい子ども時代を送る。旧制半田中学校卒業後、「赤い鳥」入選を契機に北原白秋や巽聖歌の知遇を得る。昭和18年、結核のため29才で世を去る。

解説

どちらかといえば、辛く悲しい詩や、はかなく美しい詩を多く残した南吉が、安城高等女学校へ勤め始めたこの時期(1939年、40年頃)、「ひよこ」、「蚤」、「蛇」、「鼠」、「金魚」、「殿様蛙」などといった小動物を題材にウィットとユーモアに富んだ作品をまとめて発表した。

「ひよこ」は、やわらかいうぶ毛につつまれた、手まりのようなひよこ。そのひよこの一瞬の動きを見事にとらえている作品だ。鶏の仕草をとらえた「鶏」は全体が実にしや

れている。「仕事の捗らぬ職人のように。」という発見が何とも心憎い。

前新美南吉記念館館長

矢口 栄 さん

解説者

半田市、知多市、東浦町の小中学校勤務を経て'04年から'11年まで新美南吉記念館館長を務める。著書「南吉の詩が語る世界」(一粒社出版部)「子どもたちに贈りたい詩」(教育出版センター)「新しい詩の創作指導」(共著・明治図書)ほか。

おしらせ

キッズワークショップフェスティバル
2013~in南吉のふるさと半田~

【日にち】9/21・22・23・28・29、10/5・6

【場所】新美南吉記念館【参加料】有料

大人も子どもも童話の世界を楽しもう!南吉童話に触れあえる体験教室がいっぱい。

【問合せ】半田市観光協会 0569-32-3264

南吉童話のぼりフラッグアート

【日時】9/21 10:30~、14:00~(約1時間)

【場所】岩滑小学校体育館

【料金】無料、要予約

のぼりフラッグに南吉童話を描くお絵かきワークショップ!

【申込・問合せ】

半田市観光協会 0569-32-3264